令和５(2023)年度　栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校　学校評価結果報告書

教育目標	１　博く深く知識の習得に努め、自主積極的に物事を究明し、正しい判断力を養う。 ２　心身を鍛練して、不撓不屈、堅忍持久、活動的にして、実践力に富む道徳性を養う。 ３　自他の敬愛と相互協力の理念に徹し、責任を重んじ規律を守り、協調融和の精神を養う。 ４　自己の育んだ一切の他力に深く思いを致し、感恩奉仕の信情を高める。	今年度の重点目標	「一人ひとりの生徒を中心に据えた品格と魅力のある学校文化の創造」 １　「正剛寛」の実践指導による、大志を抱いて未来を創造できる生徒の育成 ２　「授業第一主義」による学力の向上と読書指導の推進 ３　安全性の確保の上に立った基本的生活習慣の確立と学校行事・部活動等の活性化 ４　リーダーシップ･フォロワーシップ及び寛容性・対話力の育成 ５　教育改革の流れを踏まえた、知的好奇心を喚起し探究心を養うための学習指導及び進路指導の充実 ６　中高一貫教育校としての体制の充実	達成度	・アンケート・教職員評価の肯定的意見 Ａ・・80％以上 Ｂ・・60％以上80％未満 Ｃ・・40％以上60％未満 Ｄ・・40％未満

学校自己評価									学校関係者評価	令和６(2024)年度に向けた改善策
現状と学校評価実施計画					達成状況				【全体】 ・全体として高い評価を得ており、良い教育活動が行われている。 ・昨年より評価が下がったところについては、危機管理の視点から改善策を考えてほしい。 ・中高の一体感については、今後、細かなところまで中高の教員の意識をそろえていくことも大切であると思う。 【情報の発信】 ・学校のホームページなどで、本校の教育活動についての情報発信を、良く行っている。 【夢や目標】 ・夢や目標を、早い段階で設定していけると良い。社会に出た時を見据えての教育をお願いしたい。 【学校の魅力】 ・中高一貫校であることを活かした魅力づくりを今後も発信し続けていただきたい。	【全体】今後も、中高の教員で連携を取り、６年間を見据えて生徒指導、学習指導等の充実に努めていく。
重点	生徒の現状と課題	評価項目	主な方策	評価指標	アンケート 生徒	アンケート 保護者	教職員評価 達成度	達成状況と課題		
1	・学級目標等で、校訓を意識できるようにしているが、日頃から「正剛寛」の実践意識を持って学校生活を送ることについては十分とはいえない。	①校訓を意識した学校生活	・学級活動や行事等で、校訓を意識させる機会を設定するとともに、振り返りを行う。	生徒・保護者のアンケート結果を参考にした教職員評価	B	B	A	・個人差が見られる。一人ひとりが、校訓を意識できる環境を整えていく必要がある。		学校行事等の目標で校訓を意識させるとともに、校訓を意識した言葉かけや振り返りなどを継続していく。
		②夢や目標をもった学校生活への取組	・一人ひとりに夢や目標をもたせる指導をするとともに、個性を尊重し、大切に育てていく。		B	B	A	・個人差が見られる。一人ひとりの自己肯定感を、各種活動を通して育成する必要がある。		様々な職業を意識できる活動を充実させ、社会に出たときの自分を意識できる機会を設定する。
2	・生徒同士が対話等により、学びを深めることが必要である。生徒に新聞等から時事問題に関心を持たせたい。	①深い学びにつながる授業改善	・生徒が主体的に取り組める授業の工夫や他者及び教材と対話する場の設定を通し、自己の考えを深める学習活動を展開する。		A A	B	A	・概ね達成できている。今後も各教科で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしていく。		タブレット PC を活用し情報の収集や整理を効果的に行うとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を継続していく。
		②活字に親しむ指導の推進	・各授業等で新聞や本を活用した学習を取り入れる。		A	B	A	・概ね達成できている。今後も朝の読書タイムの充実を図る。		各教科で、活字から内容を読み取り理解できるよう指導の充実を図る。
3	・校内では時間を守り、規範意識も高いが、校外では公共交通機関利用のマナーなど、小さな交通トラブルもある。	①計画性・自主性の醸成	・生活記録等を通し、家庭での計画を把握し、随時助言を行う。		A	B B	A	・今後も家庭と協力して、計画性等の育成を図る。		生徒一人ひとりを見守り、家庭と協力して生徒の自主性を醸成する。
		②生活のきまりやマナーの遵守	・校内のきまりや交通安全を含めた公共のマナーについて定期的に指導する。		A	A	A	・多くの生徒は、きまりやマナーを守る意識をもって活動している。今後も励ましていく。		定期的な呼びかけや指導を今後も継続し、きまりやマナー遵守への意識が持続できるよう励ましていく。
4	・リーダーシップを育てる取組や環境を通して、様々な場面でリーダー性を発揮している。個性や多様性を認め合い、いじめを許さない雰囲気がある。	①リーダーシップの発揮	・様々な場面で、リーダーとしての資質を育成する場を設け、場に応じた行動を促すとともに、フォロワーシップの大切さも併せて指導する。		B	B	A	・様々な場面で、生徒に任せて、認め、褒める場面を設定する。指導を継続していく。		様々な場面で、リーダーになる機会を設定するとともに、認め、励まし、任せて、自己肯定感の育成を図る。
		②フォロワーシップの指導			A		A	・集団を意識できる生徒が多くフォロワーシップの意識は高い。		一人ひとりが、良い集団になるよう考えて取組める場を設定していく。
		③いじめを許さない雰囲気	・いじめを許さない雰囲気を学校全体で醸成する。		A	A	A	・多くの生徒は、多様性を認め、優しく接することができる。		いじめを許さない雰囲気づくりを、今後も継続していく。
5	・総合的な学習や教養講座に取り組むことで、個に応じた探究心が高まっている。	①キャリア教育の充実	・学活、教養講座等で、キャリア教育を系統的に行う。		A	B	A	・興味・関心を他の学びに繋げる指導を行う。		学校生活で自尊感情の育成を図るとともに､キャリア教育の充実に励む。
		②探究心の育成	・総合的な学習を核に、知的好奇心を喚起し、探究心を育てる。		A	B	A	・各種学習を通して生徒の探究心が継続するよう、指導を行う。		学習活動等で、自ら課題を立て、じっくり取組む場の充実を図る。
6	・体育祭や宇東祭などの学校行事や中高交流会などから、高校生のリーダーシップを実感し、よい刺激を受けている。	①特徴を生かした学力の向上	・中高の教師がお互いに学び合い、系統的な学力向上を図る。		B	B	A	・６年間での学力育成を意識した中高教員の連携を継続する。		中高の教員で連携し、６年間での系統立てた学力の向上に励む。
		②高校生からのよき刺激	・高校生と取り組む行事等で体験的に学ばせる。高校生の進路状況等に関心を持たせる。		A	B	A	・概ね達成できている。今後も中高交流会等の行事の充実を図っていく。		中高交流会や、部活動・委員会等での中高の活動の充実を図り、高校生を意識し活動できるようにする。